



留学生の声



農学研究科 1年

Khin Thandar

Voice from a foreign student in Yamagata University

I am Khin Thandar Myint, deputy assistant supervisor of Myanmar Industrial Crops Development Enterprise (MICDE). My home town is Naypyidaw, administrative capital of Myanmar. I got the diploma in Agriculture from State Agriculture Institute, Pyinmana in 2004. Then, I joined MICDE as a government staff. Then, in 2005, I studied for one year in Israel. Then, I continued my study in Yezin Agricultural University for three years and I got B.agr.Sc degree in 2008. In 2011, I got a golden opportunity to attend master courses in Japan as a JICA participant.

I felt very lucky when I got the information that I can attend the Master courses in Japan as a JICA scholar holder. I felt excited and happy at the same time. I arrived Tokyo at 6.3.2011. I was very surprised and impressed in Japan as it was my first time to Japan. Then, I moved to Tsuruoka-shi in Yamagata Prefecture to study in Yamagata University. Tsuruoka is a very beautiful place. I enjoyed the peaceful of Tsuruoka with wide green paddy fields, fresh air and graceful flowers. I love many things of Tsuruoka. Among many things that can made me feel peaceful, the most effective things are the lovely smiles, kindness and helpful hearts of Tsuruoka people especially my laboratory members.

In Yamagata University, I am belonging to Edaphology laboratory under department of bioproduction, Faculty of Agriculture. My professor is Dr. Ando Ho, very kind and helpful person. I also very respects to my other supervisors Associate Professor Dr. Kenichi Kakuda and assistant Professor Dr. Yuka sasaki. I also admire my experiment partner Ohmori keiko, my tutor, Madoka Sato and all my laboratory members for their kindness and pure hearts. I am very proud to be a student of Yamagata University.

I want to say words of thank to Japan International Cooperation Agency (JICA), my parents, my teachers, my laboratory members, staff of Yamagata University and anyone who put a smile on my face.

北海道支部(月山会) 活動報告

月山会会长
(昭和40年農業工学科卒)

菅 原 義 昭

初秋の候、鶴窓会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。まずは、3月11日に発生した東日本大震災で亡くなられた多くの方々のご冥福を衷心よりお祈り申し上げますとともに、被災された皆様のご心中、ご苦労をお察し申し上げ、心よりお見舞いを申し上げます。

本道においても、大地震、大津波により一人の方が亡くなられ、多数の家屋や施設の浸水、船舶・漁業被害など各地で大きな被害が発生しました。

何よりも、福島第1原子力発電所の事故は、今まで私たちが体験したことのない想像を絶する被害をもたらし、我が国の原子力政策に警笛を発しました。放射能の拡散により、福島県では収穫前の稲から国の暫定規制値を超える放射性セシウムが検出されたとの報道や福島で生

たしました。毎年恒例の月山会(鶴窓会北海道支部)の余興である山形物産抽選会を東北復興祈念抽選会として、岩手、宮城、福島、山形県の物産品を集め、参加者全員に配布することといたしました。

その時の月山会の様子を報告いたします。

北海道は、ご存じのとおり広大ですので、札幌に出かけるにしても遠方から来るにはなかなかお金と時間が大変です。今回内いたしましたが、若い方ほど遠方に居られるため、出席者は例年同様の19名(会員総数125名)の参加に止まりました。また開催時間は遠方から来られる方に配慮し、15時30分からの開催としました。

開宴の前に、出席者で集合写真を撮影(2名が遅れました)

(文責:原田 淳
(昭和60年農業工学科卒))

産された花火の打ち上げ中止など風評被害も後を絶ちません。そのような中で我々は何か少しでも役に立ることはできないかと、9月3日土曜日15時30分から札幌市内のホテルで開催いたしました。

今年の月山会の報告は、青年時代を過ごした想い出の地「東北」で起きた大震災に尽きますが、津波に襲われ4、5年は作付することすらできないと思われた石巻のほ場で米の収穫があつたとの報道がありました。その努力たるや並々ならぬものがあつたと思います。山形大学農学部を卒業し、農業の一端に携わる者として一刻も早い復興を切に祈っています。

め17名)し、村本顧問(農学科38年の乾杯の音頭で開会いたしました。1年ぶりの再会ということもあり、諸氏ともに話題が絶えず、和やかな雰囲気の中で、参加者全員からの近況報告会から提供いただいた逍遙歌のCDをバックとして齊唱し、早い散会となりました。

支部報告



北海道支部(月山会) 平成23年9月3日(土) 於: KKRホテル札幌

村山支部総会について

古瀬譲一
(昭和42年農学科卒)

今回の総会で、役員改選がありました。支部長は私、古瀬で、副支部長は栗野省三さん（S44卒）、阿部芳幸さん（S45卒）、事務局長は引き続き齋藤博行さん（S45卒）になりました。

今後2年間支部長を務めます

が気張らないで自然体で行きました。支部長はよろしくお願ひします。

置賜支部

二宮弘明
(平成元年園芸学科卒)

村山支部総会は隔年開催で前回は平成21年10月に開催しました。今年は9月11日の日曜日の午後3時から山形国際ホテルで開催しました。

総会の前に農学部副学部長の阿部利徳教授より「山形大学農学部におけるプロジェクト研究の展開」の講演があり、続いて山形県庁農林水産部生産技術課副主幹の須藤佐蔵氏から「安全・安心な農産物生産について」の講演がありました。

来賓として出席頂いた鶴窓会会長の佐藤晨一さん（S41卒）は、前日の置賜支部総会に引き続きの出席でした。

村山支部事業のメインは総会と地区懇談会ですが、参加者の少ないのが悩みです。今回の総会は、前支部長の大沼幸男さんが目標としていました80名の参加にはほど遠い26名の参加でした。会員の1割に参加して頂ければ72名になるのです。今年は会費納入者に支部会員名簿を送付することにしております。「鶴窓会だより」を読まれて支部会費を納入する際は12月末までお急ぎ下さい。



村山支部総会 平成23年9月11日(日) 於：山形国際ホテル

はじめに、3月11日に発生しました東日本大震災におきまして、被害に遭われました鶴窓会員の皆様をはじめ、全ての被害者の皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

さて、置賜支部は昭和38年に設立され、今年で49年を迎えることになりました。現在の会員数は、卒業証書第一号の中川実氏をはじめとする137名で、置賜3市5町（米沢市・南陽市・井市・高畠町・川西町・白鷹町・飯豊町・小国町）全ての市町に在住しております。

支部総会は隔年開催しており、今年は9月10日に赤湯温泉むつみ荘で開催されました。総会には大変お忙しい中、鶴窓会佐藤会長をお迎えし、「農学部及び鶴窓会の現状と課題について」を、また支部会員の遠藤敬治氏（48農化卒）より「食生活の変遷」について、お二人から大変貴重な講話をいただきました。なお、本総会において、長年置賜支部を支えていただきました前支部長の森好郎氏（25農卒）と前事務局長の土屋富雄氏（31

林卒）のお二人に、本部総会において同窓会長から感謝状の贈呈があつたことを伝達・披露いたしました。

さて、私が卒業してから早いもので22年が経過ましたが、卒業当初は置賜支部の行事になかなか参加できず、職場の先輩からのお誘いもあり、ようやく参加できるようになりました。しかし、私がまだ若い方に位置していますが、総会等においても私は、やはり会員の参加が少ない状況にあります。他の支部でも同様の傾向が見られるようですが、先輩方から様々なお話を聴いていた私もまだ若い方に位置していました。

さて、私が卒業してから早いもので22年が経過ましたが、卒業当初は置賜支部の行事になかなか参加できず、職場の先輩からのお誘いもあり、ようやく参加できるようになりました。しかし、私がまだ若い方に位置していました。ですが、総会等においても私は、やはり会員の参加が少ない状況にあります。他の支部でも同様の傾向が見られるようですが、先輩方から様々なお話を聴いていた私もまだ若い方に位置していました。



置賜支部総会 平成23年9月10日(土) 於：赤湯温泉 むつみ荘

**鶴窓会宮城県支部
第四回総会を開催**

事務局
中井 誠一
(昭和53年農芸化学科卒)

平成23年6月12日午後3時から、仙台市青葉区のホテル法華クラブにおいて第4回目の鶴窓会宮城県支部総会を開催しました。本部からは齋藤副会長にお出でいただき、48名が参加し、賑やかにひとときを過ごしました。

当日は、渡辺 力氏（平成2年、林学科卒）を議長に選任し総会が進行されました。冒頭に3月11日に発生した東日本大震災と大津波による犠牲者のご冥福を祈り、全員で黙とうを捧げました。その後、「平成22年度事業実績及び決算」と「平成23年度事業計画及び予算（案）」についてご承認いただき、総会が終了しました。

引き続き、皆様お待ちかねの懇親会に移り、富樫千之副支部長の挨拶、佐藤末吉さん（昭和26年林学科卒）による乾杯の発声と続きました。その後、お忙しい中、本部から出席いただいた齋藤副会長から最近の大学を巡る状況などをお話をいただきました。さらに、今回は特別ゲストとして、名取市閑上の自宅で



宮城県支部総会 平成23年6月12日(日) 於：ホテル法華クラブ

被災された、「名取ハマボウフウの会」代表の大橋信彦さんをお招きし、会の活動の様子と被災状況、今後のハナボウフウ復活に向けた取組についてご紹介いただきました。会員の皆さんも興味深くお話しを聞かれた様子でした。大橋さんは山大文理学部の出身で、大手広告代理店勤務の後、故郷である名取市閑上に戻つてハマボウフウの復活に取り組んでこられました。大橋さんは、県の水稻基幹品種である「ひとめぼれ」が世に出たときに、PR活動を中心的に担当された方であり、当時私も一緒に仕事をさせていただきました。ハマボウフウは津波で壊滅的な被害を受けましたが、奇跡的に復活を果たしつつあるようです。

この後、参加者によるスピーチが断続的に続き、あつという間の2時間が過ぎてしまいました。引き続き、名残惜しい思いの面々で二次会が行われ、なんと20名もの方々が参加されました。来年も引き続き、6月中旬（第2日曜日）の開催を予定しておりますので、県内在住の皆さんにはぜひとも参加くださるようお願いします。

第二部の講演は、「生物遺伝資源を巡る国際情勢と探索の課題」と題して、林学科61年卒の奥泉久人さんから興味深く貴重

関東支部

支部幹事
篠原 齋四郎
(昭和47年林学科卒)

第8回関東支部総会及び懇親会は、6月12日午後0時半～4時にかけて東京都港区芝浦の山形大学東京サテライトで来賓として鶴窓会本部から佐藤辰一会长さんを迎えて開催しました。

開催時期が東日本大震災直後とあって躊躇しましたが、役員会の総意として会員同士の絆を深め、被災地域の出身又は家族が居住しているなど縁の深い同窓会員を激励しようと開催にこぎつけ、40数名が参加しました。

総会は佐藤善作副会長（38農学卒）の開会の辞に続き、大山克巳代表（37林学卒）の挨拶、松山正弘会計担当（57農工卒）の報告、鈴木晴夫監事（39農学卒）の監査報告、支部役員の補充、篠原代議員（47林学卒）から本部代議員会報告、岩城功希総務（38農工卒）からの会員状況、事務局報告などが順当に進み、三宅義則副代表（45農化卒）の閉会の辞で予定時間内に終りました。

その後、出席者全員で記念写真撮影をして懇親会に場を移しました。最初に本部の佐藤会長さんから会長就任の挨拶と農学部や鶴窓会の現況、活動について報告がありました。例年の懇親会では山形・庄内の物産品、大学グッズを提供してきましたが、今年は被災地の福島県交流館、宮城県ふるさとプラザ、岩手県銀座プラザなどから丹精込めた物産品を仕入れました。僅かでも被災地の支援になればとの思いですが、一つ一つが地方色と心のこもった品に会員からも歓喜の声が出ました。

被災状況の詳細が未だに不明の中、被災された在学生・同窓会員はもちろん、縁ある東北の復旧・復興を願いつつ、出席者が心温まる義援金が寄せられたので大学本部の支援窓口に送金することに決定しました。話も尽きぬ中、来年の再会を期して散会になりましたが、恒例の二次会はいつもの呑来醍で先輩後輩の枠を超えて心地よく思い出を語らえた一日でした。

役員会としては次回以降の講演者たちの発掘と出席会員の増大確保が課題です。関東地域在住の皆様には、気軽に情報交換の場に足を運んでと願つてやみません。特に平成年代の若手には熱い思いをぜひ語つてほしい！



第8回鶴窓会関東支部総会 平成23年6月12日(日) 於: 山形大学東京サテライト

関西支部総会

報告 T・Y&K・O

鶴窓会関西支部は昨年10月9日に4回目を終え、11月に米沢工業会に招待を受け参加、又今年1月にはふすま会に同じく参加、5月23日には本部総会に参加、7月14日に関西校友話合い（第2回）がもたれ、交友を育むことで一致した。この間、当会各幹事会員とのネットワーク打合せがもたれた。

又、鶴窓会だよりの寄稿は次の諸氏を推薦しました。

佐野 寿彦（S59農工）
金光 善憲（S57農）
松田 年司（S41農工）
野中 久嗣（S53農工）
田中 博人（H16生物環境）

今年の総会は

10月1日（土曜日）を予定に幹事一同準備に掛つております。

（関西支部事務局）

関西支部第5回総会次第

日時 平成23年10月1日（土）17時
場所 割烹湖月（大阪市中央区）

受付 小山参与、田端参与
(会長ご案内 種一参与)

晴天の夕暮れ予定通り超厳し

い世相の中で、本部より新しい会長、来賓の方々をお迎えし28名の出席者を得て開催されまし

た。（なお、本部より地酒みどり樹2本、お送り頂きました事を申し添えます。）

1. 開会の辞（司会 古川 幹事）

2. ご挨拶と経過報告（支部長 最近の関西支部の動向（仮称・関西校友会、鶴窓の森構想等）

3. ミニ講演会（事務局長 鈴木幹事）

規約・役員について（山形県の近況報告）

4. 初参加者紹介（山大人文卒）

5. 来賓紹介・ご挨拶（庄内おばこ他）

6. 憲親会（河上幹事）

7. 歌・山形県民謡（乾杯（斎藤顧問））

8. ふすま同窓会（佐藤晨一氏、里村義征氏）

9. 鶴窓会本部代表（佐藤晨一氏、ふすま同窓会（斎藤格司氏、手塚勝夫氏））

10. 鶴窓会（河上幹事）

11. ふすま同窓会（斎藤治藏（S38林））

12. ふすま同窓会（田端一晴（S49農工））

13. ふすま同窓会（穗波秀一（S30農））

14. ふすま同窓会（田端穗波（S34農））

15. ふすま同窓会（田端穗波（S34農））

16. ふすま同窓会（田端穗波（S34農））

17. ふすま同窓会（田端穗波（S34農））

18. ふすま同窓会（田端穗波（S34農））

19. ふすま同窓会（田端穗波（S34農））

山形民謡の聞こえる会場で、盃を交わし話し合う中で、後輩は先輩に世の中で、先んじ、将来の自分と照らし合わせられる相手、先輩は後輩に後釜を見つけ、昔の自分の姿を重ね合わせ、感じ入り、時を忘れる。鶴岡に居るのか、大阪に居るのか、錯覚を覚えながら、再会を誓い、一夜を終えた。

mの位置になります。
Tel・Fax 06・6252・
6887)



関西支部総会 平成23年10月1日(土) 於：大阪新斎橋「割烹 湖月」

鶴窓会関西支部役員
支部長 安富 俊晴（S38農工）
事務局長 岡 勝行（S50園芸）
幹事 古川 良和（S45農）
鈴木俊一郎（S45林）
河上 貴広（H16生物生産）
野中 久嗣（S53農工）
煙 繁喜（S50農化）
西村 健（H9生物環境）
河上 彩矢佳（H17生物生産）
斎藤 治藏（S38林）
松田 年司（S41農工）
種一 英雄（S43農）
小山 文男（S45農化）
田端 一晴（S49農工）
穗波 秀一（S30農）
穗波 信雄（S34農）

附則 上記は、平成23年10月1日より

実施する。

（関西支部事務局・大阪市中央区
東心斎橋196シティコープ心斎橋601旧地方計画設計コンサルタント事務所内、会場の湖月は50

「おしゃべりな畑」



定価：1,500円（税込）
発行所：山形大学出版会

「この本を出版する意図は次の三点にあります。
一、先行きが見えない中でも心豊かに在来作物を守ってきた農家への感謝
二、山形県の農の伝統と多様性を知り、今後の日本の持続的で豊かな暮らしのヒントにすること
三、百年後の県民に、現在を知る手がかりを提供することです。

山形の在来作物を紹介する本として、2007年に「どこかの畠の片すみで」を出版しましたが、この本はその続編にあたるものです。前回は在来作物の紹介に重点をおいていましたが、この本はその解説においていましたが、今回は在来作物の継承をおいています。在来作物は、美味しいから、

豊かに在来作物を守ってきた農家への感謝

家族に食べさせたいから、なくしては先祖に申し訳ないから、次の世代に伝えたいからなど、多くは「心」に関わる理由で伝わってきました。残念なことに、その大部分は厳しい農業の現状を反映して、栽培後継者がいません。これから時代に重要性を増すと思われる、在来作物の歴史や文化、込められた

「想い」は、まさに消えゆこうとしています。一方、この数年間に、在来作物への理解が深まり、地域の宝として継承していくことを始めています。

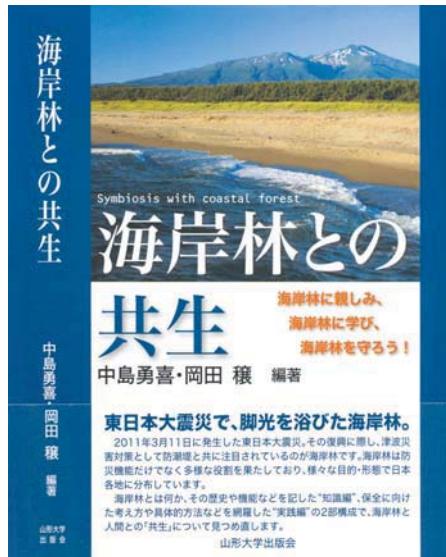
この年に、震源としたM9.0の巨大

地震が発生しました。この地

方沖を震源としたM9.0の巨大

震源が発生しました。この地

「海岸林との共生」



定価：1,500円（税込）
発行所：山形大学出版会

2011年3月11日、宮城県東北沖を震源としたM9.0の巨大震源が発生しました。この地に伴い東北地方を中心として大規模な津波が発生し、その津波は多くの建物や木々、人々を飲み込むという大惨事を引きおこしました。

その中、あわせて注目されたのが海岸林です。

私達は震災が起きた以前より、本書の出版に向けて準備をしてきました。そこへ今回の震災が起り、今までに海岸林についての認

2011年春 中島勇喜

はじめ

一部抜粋

2011年春 中島勇喜